

府立茨木工科高校3年

向阪 悠斗さん(18)

銅線を手にすると、工具で輪は、まん丸。お見事！「こ
ビニールの覆いをスリットとほれ、基本(の作業)ですけどど
ぎとった。銅線があらわになね」と言いつつちょこちょこ
と、今度は工具の先端部分しそう。府立茨木工科高校電
で銅線をつかみ、小さな輪を気技術専科3年、向阪悠斗
クックと作った。直径数ミリのさん(18)は、今年度の高校生



電気工事

考える楽しさ 作る楽しさ

ものづくりコンテスト大阪大会電気工事部門で準優勝した。4月からは電気関係の仕事に就く。

同校に進学したのは、父の影響があった。父は同校のOBで自動車関連の仕事をしている。「仕事を頑張っていてカッコいいと思っていまして」。家の車を直す姿もよく覚えていた。

悠斗さんは幼いころから工作が好きで、段ボールや牛乳パックがあると、崩したり貼り合わせたりしていた。「セロハンテープがいくらあっても足りないみたいな状態。ごみがたくさん出るから怒られていました」と自分でもよく覚えていた。小学校でも得意なのはもちろん図工。理科の時間も、実験キットが配られると、先生の説明を待たずに、封を開けて組み立ててい

た。

コンテスト前には、教室にこもって作業の練習を繰り返したという

―茨木市の府立茨木工科高校で



高校進学のときに考えた。「自分の未来像が何もなかったんです。『どりあえす高校に行っておこう』ではやる気も出ないし、ふわふわしたまま3年間が終わわり、適当に大学に行くことになる。それでいいはずがない」。父の背中が進路を決めた。

「電気」の楽しさを聞くと「たとえエレベーターのボタンを押すと、指示通りに動きますよね。どんな回路になっているんやろうと考えるの

も楽しいし、別の動きをさせるにはどんな回路にしたらいいんやろうと思うのもおもしろい」。にこにこ本当に楽しそうに話す。「いろいろな回路があって、今の日常がある。すごいと思うんです」

鉄塔にのぼって仕事をした。鉄塔にのぼって仕事をした。ヘルメットをかぶって、腰に工具をつけて手作業で直すんですよ。カッコいいでしょ。頼もしい若者だ。